

歯学部校舎大型改修工事を終えて

歯学部長 前田 健康

平成25年2月から開始された歯学部大型改修工事は平成27年9月に無事終了しました。改修工事は平成24年度概算要求施設整備事業、平成24年度補正予算（第1号）[経済対策]、平成26年度概算要求施設整備事業（26～27年度2年国債）により3期計画で実施されました。多年度にわたる改修工事業でしたが、工事期間からみれば約2年半で17,500㎡の校舎改修が終了したこととなります。あわせて、歯学部玄関前の環境整備および歯学部校舎周囲の駐車場整備も完了しました。既に第1期工事（B'、C、D棟：改修校舎ではB'棟はC棟の一部に組み込みC棟と称することとなりました）、第2期工事（A、B棟）については歯学部ニュース平成25年度第2号（通算124号）、同平成26年第2号（通算126号）に報告済ですので、本稿では第3期工事（E、E'棟）を中心に筆を進めて行きます。

今回改修対象となった歯学部校舎E棟は1～2階が旧歯学部附属病院、3階が口腔生命福祉学科（その前は入院病棟）、4～5階が旧臨床系研究棟、E'棟には学生技工室、CT室、保存系実習室、補綴系実習室が配置されていました。E棟は主として学生ゾーンと基礎系分野、E'棟は共同研究ゾーンとして歯学部校舎大型改修工事のグランドデザインで計画されていました。これまでの改修工事と異なり、このE、E'棟では3～5階について建物の中央に配置されていた廊下を、E棟では北側（新外来棟側）に、E'棟では南側（市役所側）に配置し、居室スペースを大きく取りました。すなわち、大きなスペースを細かく区分けすることなく、各分野、実験室のアイデア、実態に合わせて間仕切りを行うという方式をとり、E棟3～5階に硬組織形態学分野、歯科薬理学分野、微生物感染症学分野、歯周診断・再建学分野、

口腔生理学分野、口腔解剖学分野が配置されました。

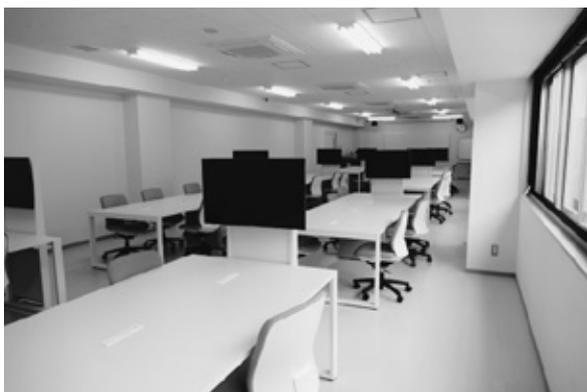
E棟1階には全学共有スペースに加え、マルチディスカッションルーム、基礎実習室を、2階には講義室、学生ロッカー室を配置しました。2階に講義室、学生ロッカー室を配置することにより、C棟2階からE棟2階にかけ、学生交流室を含めた学生ゾーンが完成しました。各講義室には最新の視聴覚設備を整備しました。

E'棟1階は全学共有スペースを配置し、2階にはアクティブラーニングを目指したPBLチュートリアル室（PBL室）を12室新設し、各部屋にはPCに加え、最新型の短焦点液晶プロジェクター付き電子白板を整備しました。3階には昨年新設した高度口腔機能教育研究センターと歯学教育研究室が、4～5階には高度口腔機能教育研究センターが管理するコモラボなどの共有研究スペースを配置し、特に5階には大型のコールドールーム、恒温恒湿ルーム、電子顕微鏡室を設置しました。なお、これらの共有スペースには平成27年度概算要求特別教育研究経費「ネットワーク型教員組織の構築によるレジリエンスな教育研究拠点の形成」、学長裁量経費「将来構想実現促進事業費（ネットワーク型教育研究体制の構築のための環境整備）」等の経費により、最新の研究機器が集約・配置されました。このような改修工事業により供出・整備された共有研究スペースはA棟1階、B棟6階にもあり、A棟には泉教授がマネジメントする培養系共同研究スペースが、B棟には小野高裕教授がマネジメントする顎機能系共同研究スペースが整備され、その他、C、E、E'棟の全学共有スペースにはプロジェクトベースで申請、認可されたプロジェクトチームが共有実験スペースとして活用することとなっています。

本稿を執筆している1月中旬には基礎系分野の移転作業が始まり、一連の改修事業で残すところは3月末のサイン工事のみとなる予定です。歯学部内サインの設置はA棟からE、E'棟までの共通のコンセプトでデザインしたものを利用する予定にしています。

最後に、本改修工事を進めるにあたり、多大な

迷惑をかけた歯学部学生諸君・卒業生、ご協力をいただいた歯学部教員、献身的なサポートで支えてくれた歯学部事務室職員に感謝の意を表するとともに、無理難題な要求にも快く(?)応えていただいた本学施設部の皆様に厚く御礼申し上げます。



マルチディスカッションルーム



基礎実習室



PBL室



コモンラボ